感染症対策研修（高齢者等施設編）
平成28年12月6日(火)

施設における感染症対応

福井県丹南健康福祉センター
地域保健課

県内で流行っている感染症をご存知ですか？

平成２８年１１月２１日～２７日の状況
（　）は、報告いただいている医療機関の平均患者数

１位 ： 感染性胃腸炎（9.68名）
２位 ： インフルエンザ（5.38名）
３位 ： ＲＳウイルス感染症（2.68名）

丹南地域で
流行っている感染症は？

平成２８年１１月２１日～２７日の状況

丹南地域管内（鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町）

上位３疾病

１位：インフルエンザ（10.25名）

２位：感染性胃腸炎（9.0名）

３位：マイコプラズマ肺炎（5.0名）

福井県感染症情報

- トピックス・季節情報
- 緊急情報
- 発生動向調査速報
- 記者発表の記録

- 感染症発生動向調査事業概要
- 疾患情報
- 感染症関連情報

患者発生状況（週報対象）

- 一週間の概要
- 健康福祉センター別の状況
- 各感染症の状況

患者発生状況（月報対象）

- 一ヶ月の概要
- 健康福祉センター別の状況
- 各感染症の状況

- 発生数など資料一覧
- 病原体検出情報

- 子育て支援感染症情報
- 関連リンク集

http://kansen.erc.pref.fukui.jp/ 福井県感染症情報

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

おすすめサイト Web スライス ギャラ... FORTH | 予防接種実施... Google Ministry of Health & ... ページ(P) セーフティ(S)

各感染症の状況 (週報対象) 平成28年 第47週 11月21日(月)～11月27日(日)

(感染症法5類感染症・定点把握の対象疾病・週報分の19疾病)

	疾病名	前週との比較	発生の状況
	インフルエンザ	↗	😣
小児科	RSウイルス感染症	↗	😐
小児科	咽頭結膜熱	↘	😐
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	😐
小児科	感染性胃腸炎	↗	😐
小児科	水痘	↗	😐
小児科	手足口病	↘	😷
小児科	伝染性紅斑	↗	😐
小児科	突発性発疹	↗	😐

	疾病名	前週との比較	発生の状況
小児科	百日咳	↘	😐
小児科	ヘルパンギーナ	→	😐
小児科	流行性耳下腺炎	↘	😐
眼科	急性出血性結膜炎	→	😐
眼科	流行性角結膜炎	↘	😷
基幹	細菌性髄膜炎	↘	😐
基幹	無菌性髄膜炎	→	😐
基幹	マイコプラズマ肺炎	↘	😣
基幹	クラミジア肺炎	→	😐
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	😐

・発生の状況 (過去5年間の同時期と比較しています。)

- 😣 ： 平年よりたいへん多い報告数です。(m＋2×SD 以上)
- 😖 ： 平年より多い報告数です。 (m＋1×SD 以上)
- 😐 ： 平年並みの報告数です。 (m±1×SD 範囲内)
- 😷 ： 平年よりすくない報告数です。 (m－1×SD 以下)

ポータル - Inter... 福井県感染症情... Microsoft Powe...

感染症対策の基礎知識

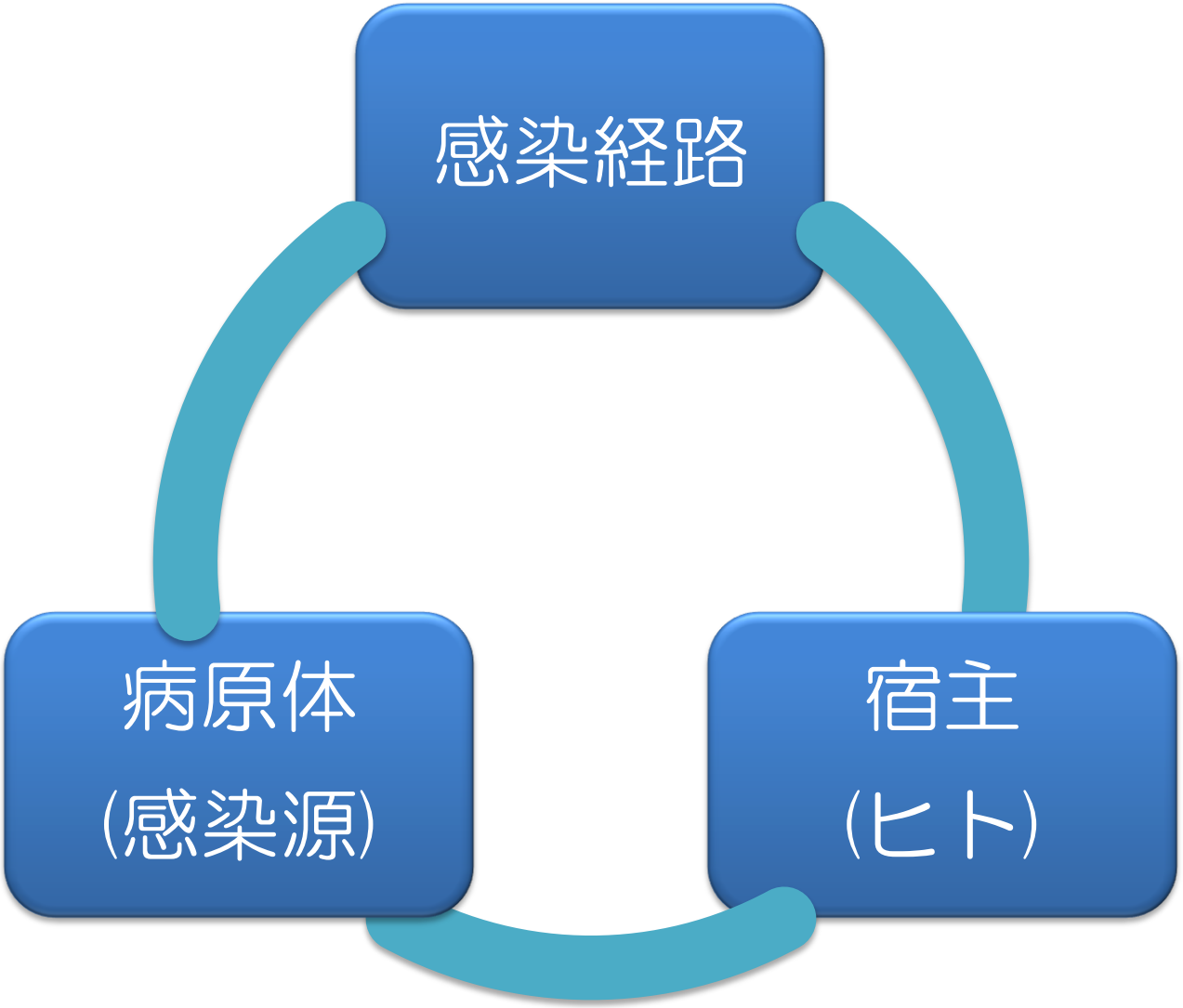
●感染とは・・・・

・細菌やウイルスなどの病原体が身体の中に入り込んで、増殖すること
・感染した人すべて発症するわけでなく、症状がない人もいる（保菌者）

●発病とは・・・・

・感染し、何らかの症状が出ること

感染成立の要因



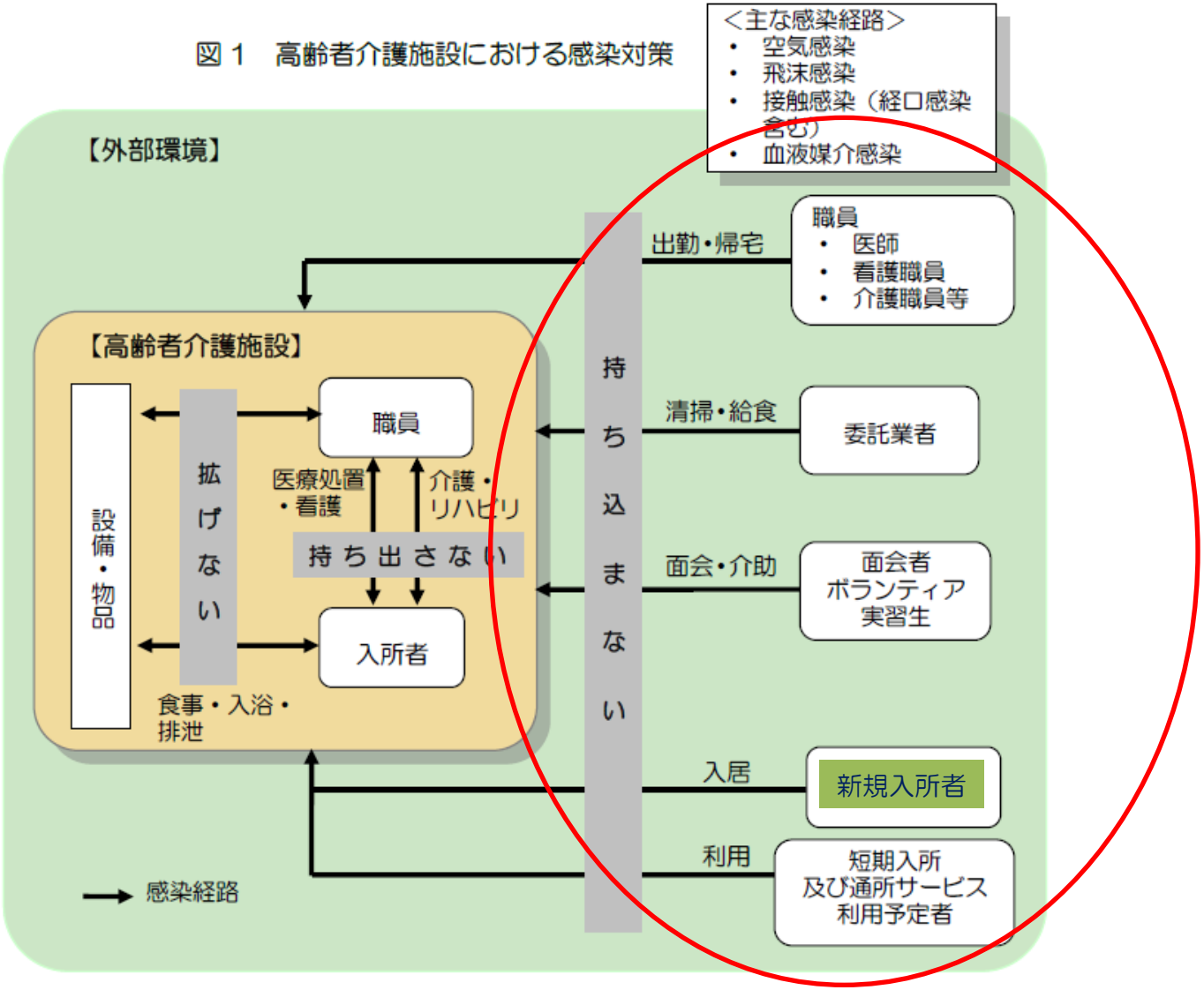
感染防止のための対策

感染経路を遮断する
手を洗う
マスクをする
うがいをする
手袋をする
感染源を取り除く
消毒
宿主（ヒト）の
抵抗力を高める
熱湯をかける
ワクチン接種
消毒剤につける
体力をつける

施設等での感染対策のポイント

病原体を持ち込まない・持ち出さない・拡げない

図１　高齢者介護施設における感染対策

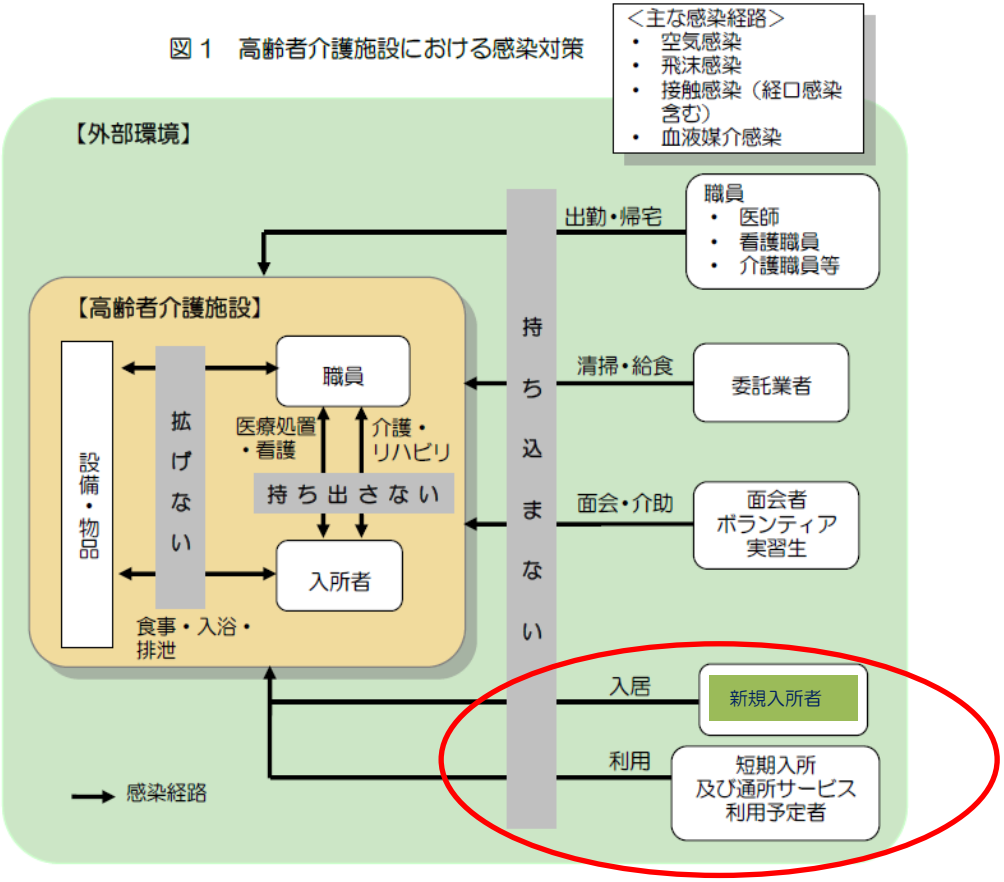


出典：厚生労働省　「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」

こんな事例がありました

★ショートステイ利用者が入所前に感染し、入所後に発症した

図１　高齢者介護施設における感染対策

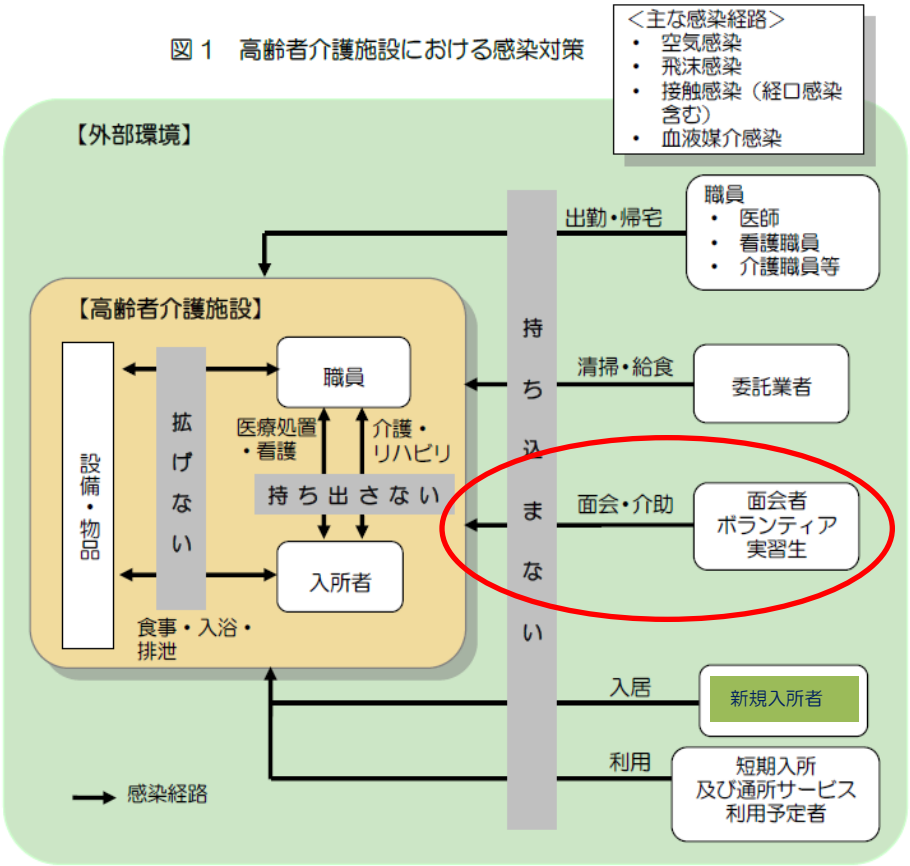


こんな事例がありました

★連休中に多数の面会者が来訪。その後利用者、職員が次々発症した。

（面会者は職員と同じトイレを使用し、職員は清掃を担当）

図１　高齢者介護施設における感染対策



病原体を持ち込まない

□ 手洗いの徹底

流行期には日常生活においてもこまめに手洗いを!
- 吐物処理や接触した後
- 乳幼児等の吐物や便の処理後
- 公衆トイレ使用後
- 用便後
- 帰宅後
- 廃棄物処理などの作業後
- 調理前や調理中の必要時

➢職員

出勤時、外出先からの帰着時等

➢来訪者

協力を求める

□ 健康状態の把握

➢利用者

・家庭での様子
・施設外（家庭等）での暴露の可能性
　→潜伏期間を考慮した健康状態の把握

➢職員

感染症罹患時に休むことができる職場環境づくりが必要
　□早期に医療機関への受診を勧めている
　□出勤停止などの対応を決めている

➢施設内に出入りする保護者、ボランティアや委託業者職員等

まずは、感染症を疑う！

主な症状	要注意のサイン
発熱	● ぐったりしている、意識がはっきりしない、呼吸がおかしいなど全身状態が悪い。 ● 発熱以外に、嘔吐や下痢などの症状が激しい。
嘔吐	● 発熱、腹痛、下痢もあり、便に血が混じることもある。 ● 発熱し、体に赤い発疹も出ている。 ● 発熱し、意識がはっきりしていない。
下痢	● 便に血が混じっている。 ● 尿が少ない、口が渇いている。
咳、咽頭痛・鼻水	● 熱があり、痰のからんだ咳がひどい。
発疹（皮膚の異常）	● 牡蠣殻状の厚い鱗屑が、体幹、四肢の関節の外側、骨の突出した部分など、圧迫や摩擦が起こりやすいところに多く見られる。 ● 非常に強いかゆみがある場合も、まったくかゆみを伴わない場合もある。

「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」

主な感染経路と原因微生物

感染経路	特徴	主な原因微生物
接触感染（経口感染含む）	● 手指・食品・器具を介して伝播する頻度の高い伝播経路である。	ノロウイルス 腸管出血性大腸菌 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、緑膿菌 など
飛沫感染	● 咳、くしゃみ、会話などで、飛沫粒子（5μm 以上）により伝播する。 ● 1m 以内に床に落下し、空中を浮遊し続けることはない。	インフルエンザウイルス ムンプスウイルス 風しんウイルス レジオネラ属菌　など
空気感染	● 咳、くしゃみなどで、飛沫核（5μm 以下）として伝播する。 ● 空中に浮遊し、空気の流れにより飛散する。	結核菌 麻しんウイルス 水痘ウイルスなど
血液媒介感染	● 病原体に汚染された血液や体液、分泌物が、針刺し事故等により体内に入ることにより感染する。	B型肝炎ウイルス C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス（HIV）　など

「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」

標準予防策
（スタンダード・プリコーション）

◆米国疾病対策センターが提唱した、病院向け感染予防のガイドライン

「すべての人の血液、体液、分泌物、排泄物、傷のある皮膚、粘膜などは、感染する危険性があるのとして取り扱う」

「しっとり、ヌルヌル、べちょべちょ」　したもの＝感染の危険性がある。

手洗い・手袋・マスク・エプロンなどの適切な着用

標準予防策の実際

①手指衛生（手指消毒、手洗い）

- 介護等の現場では、利用者や職員の手を介して病原体が人から人へと感染

  手指消毒、手洗い　⇒　感染経路を遮断

- 日頃から、手指消毒や手洗いの方法を訓練し、正しい手指衛生ができるようにすることが大切

【注意点】

- 手指に目に見える汚れがある場合は、「手指消毒」ではなく「手洗い」をする
- 嘔吐・下痢のある患者に接触した後は、「手指消毒」ではなく「手洗い」の方がよい

  冬場は、ノロウイルス感染症かもしれないとして対応する

標準予防策の実際

②手袋、マスク、エプロン等の適切な使用

- 汚染の拡大防止と、対応する人への直接的な汚染防止のために使用
  （トイレ介助、おむつ交換、嘔吐物処理時）
- 使用後は、汚染が拡大しないように外す・脱ぐことに注意が必要

手袋

血液・体液・分泌物・排泄物などに

触れるとき、触れそうなときに着用

手袋の交換のポイント

- 処置ごと患者ごと
- 汚染されたとき

手袋を外したあとは手指衛生

- ピンホール（穴あき）の可能性
- 使用中に破損する可能性
- 使用中に手袋内で微生物が繁殖している可能性
- 外すときに手指が汚染されている可能性
- 手袋の上から消毒しても効果はない

エプロン・ガウン

血液・体液・分泌物・排泄物などが飛び散り、身体や衣服が汚れるとき、汚れそうなときに着用

エプロンの選択

- ディスポ
- 防水性
- 必要に応じて使い分け
  - ※ ビニールエプロン
  - ※ ガウン→疥癬

例

- 陰部洗浄
- 褥瘡部分を洗浄
- 嘔吐物の処理

標準予防策の実際

③咳エチケット

・咳やくしゃみの症状があるときは、マスクを着用
・マスクをしていないときは、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆う
・使用したティッシュはごみ箱に捨てる
・咳やくしゃみをした後は、手指衛生を徹底する

⇒　※少なくとも職員は実践すべき

持ち込まれてしまったら・・・

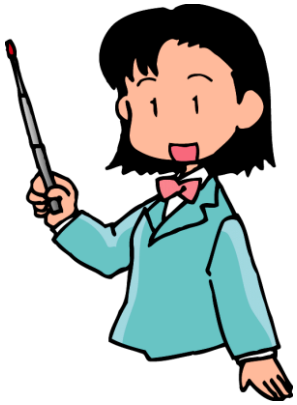
発症状況について職員に周知！
すべての職員が正しい知識を持ち、『拡げない』対応を徹底して実施！

□ 発症状況の把握

「いつから」「どこで」「誰が」「何人」

症状：嘔気、嘔吐、下痢、発熱等

□階、別に利用者・職員の発症状況を把握
□発症者の受診の有無（医療機関・診断名・検査結果）
□重症者の有無と状況
□普段の状況との比較
□家族の健康状態（入所施設は外泊時等）



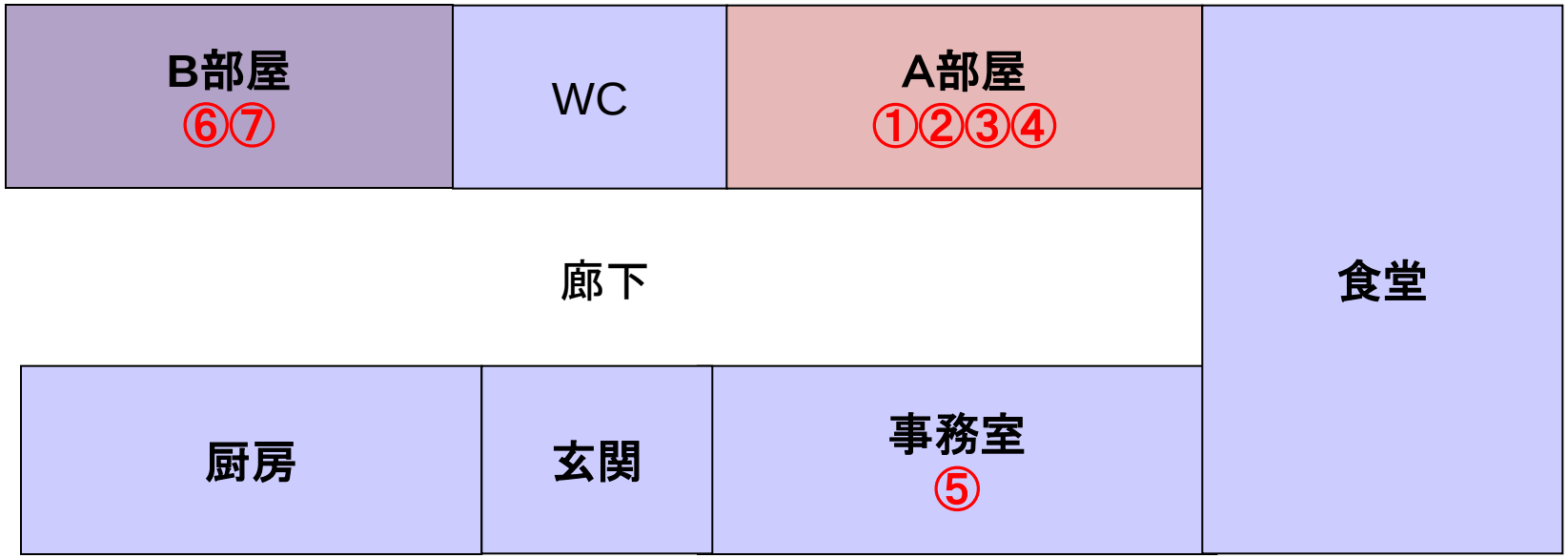
発症状況表を作成する

▲初発嘔吐　△嘔吐　●初発下痢　○下痢

NO	部屋	氏名	年齢	発症日時	発症時の状況	症状	受診状況(病院名、診断名)	4月12日		4月13日		4月14日		4月15日	
								AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
1	A	A	72	4月12日 16:00	部屋で嘔吐	嘔吐 下痢	○○医院 胃腸炎	▲	△ ●	○	○	○			
2	A	B	83	4月13日 20:00	食堂で嘔吐	嘔吐 下痢	○○医院 胃腸炎				▲ ●	○	○		
3	A	C	76	4月14日 3:00	部屋で嘔吐	嘔吐 下痢	○○医 ノロウ					▲	△ ●	○	
4	A	D	88	4月14日 6:30	廊下で嘔吐	嘔吐	○○医院 かぜ					▲	●	○	
5	職員	E	40	4月14日 9:30	自宅で嘔吐	嘔吐、熱	○○医院 胃腸炎					▲	△		
6	B	F	86	4月14日 12:00	部屋で嘔吐	嘔吐 下痢	○○医院 かぜ					▲	●	○	○
7	B	G	75	4月15日 10:00	部屋で下痢	下痢	受診なし							●	○

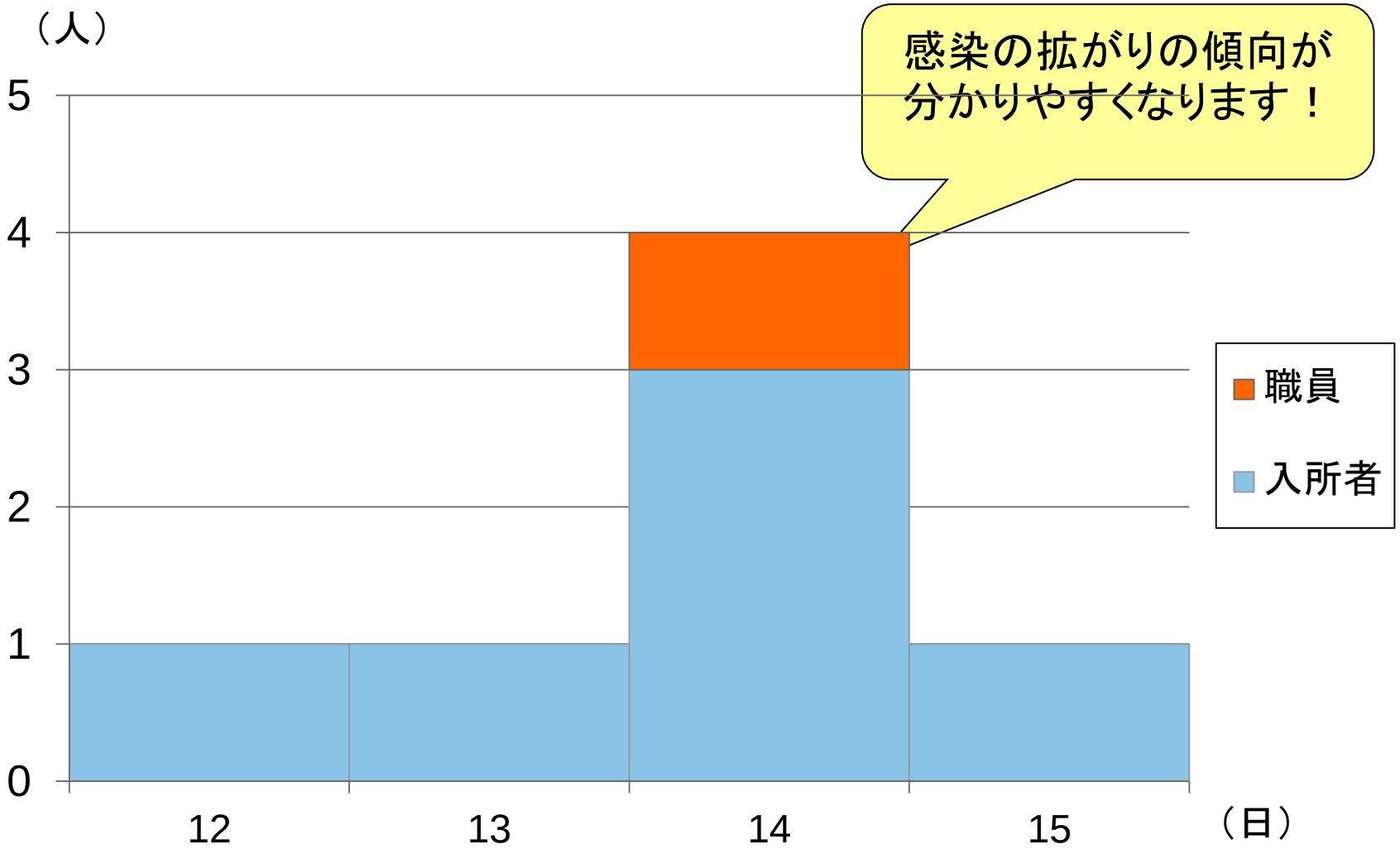
感染の可能性？

平面図に発症順を入れる



Aの部屋で発症が始まり、Bの部屋へ・・・
考えられることは？
感染はどのように広がった？

発症曲線を描く



「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成17年2月22日発　一部抜粋）

- 同一の感染症や食中毒による、またはそれらが疑われる死亡者・重篤患者が１週間以内に２名以上発生した場合
- 同一の感染症や食中毒の患者、またそれらが疑われる者が10名以上または全利用者の半数以上発生した場合
- 通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合

↓

市町の主管部局や保健所へ報告

感染症または食中毒が疑われる入所者の　①人数　②症状　③施設における対応状況について報告し、保健所に対応の指示を求める。

感染症予防は
手洗いに始まり
手洗いに終わる